



多くの業務があると体感！

自分に適した仕事を見つけました！

【ケース3】経歴10年弱

6ヶ月の警察学校卒業後、3年半、交番勤務。

女性が少ない交番勤務も私は気楽に感じていました。

5年目に突入するとき、元々興味をもっていた語学をいかせられたらと思い、県警の英語教養を受けることに。

さらには、ワンランク上の東京での長期研修へ。

公務員試験の一環という理由で採用試験を受け、警察官になった私にとっては、このような制度や働き方があることは目から鱗。

もちろん、その制度だけでなく、自信を持って仕事をするには自分で努力することが必要です。

「仕事＝好きなこと」はやっぱり幸せ。

【ケース4】経歴9年弱

経歴5年半のとき、やっと希望が叶い「女性にはむずかしい」と言われる部門へ飛び込みました。

理由は色々あると思いますが、時間も悪天候も関係なく、屋外での長時間勤務がありえることが「女性にはむずかしい」と言われる理由のひとつかと感じています。

これだけを聞けば性別の特性が体力面で影響するのではと思われそうですが、目で見えないくらい小さな証拠を扱ったり、細かい作業も多い業務なので、女性らしい「細やかさ」が武器になります。

「むずかしい」に屈さず、目指し続けて良かったなと感じる毎日。

どの業務でも努力は必要ですが、女性だからと諦める必要はありません！



女性を理由に甘えられるところは無し！！

だからこそ、キャリアも現場も男女平等が叶う。

【ケース11】 経歴11年

最初の人事異動は、まだ警察官になって2年半、希望も全くしていない意外な部署への転勤を言い渡されました。

自分の進みたい道があったので、ショックが大きく、最初は仕事に身が入らず負のサイクル・・・「こんなことではダメだ」と思い直し、その仕事ともキチンと向き合いながら、夢を叶える努力をし、今は希望した仕事をしています。

振り返ってみれば、希望していなかった部署での勤務も、自分の成長の糧となったことに気づかされています。

想定しない部署への配属は、様々な職種がある警察官だからこそ起こりえることかもしれませんが、仕事に対して「なんでもやってみよう！」という気持ちを持つことと「どんな警察官になりたいか」という具体的目標を持つことが大切で、次のステージを目指すパワーを生むと実感しています。

【ケース12】 経歴9年

女性警察官は「被害者の寄り添い」のイメージが強いところがありますが、女性被疑者の対応を切り離して考えることはできません。

女性は男性より「したたか」だと感じていて「女性被疑者の言葉を信じたがために・・・」なんて経験もあり、対応に頭を悩ませることも・・・。そういう相手を見抜く力を持たなければいけません。

また、女性警察官でも荒れた現場に乗り込んでいくことも勿論あり、現場に乗り込む勇気も求められます。

「包容力」「観察力」「戦闘力」「知性」などなど、様々な能力が無限に求められるため「そんな万能な人間はいないよ・・・」と思っちゃうときがありますが、男女を対等に扱ってもらえるからこそかなと感じています。